

Q&A その後どうなった?

そういえばあの答弁
どうなったのかな

24時間使用できる AEDの設置を

AED（自動体外式除細動器）が多くの方に認知されたのは「愛・地球博」です。来場者が熱中症で倒れ、心肺停止の4人の方が、会場に設置されていたAEDにより、尊い命を取り留めました。

Q 公共・民間施設に設置してあるAEDの中で、24時間使用可能なものはあるか。

A 公共施設のAEDは、休館日や夜間などは施錠されているので使えない。民間施設では屋外設置もあり13施設が使用可能である。

（平成26年12月議会）

Q AEDの屋外配置を増やせないか。

A 盗難や事故に対応できるように保険なども検討して、調査研究していく。（平成27年12月議会）

その後

平成30年9月までに、すべての地区公民館に屋外用が設置されました。



文教厚生委員会

「いじめ相談」「ICT活用教育」を調査・研究!

11月1日
長野県教育委員会

長野県内に住む中高生を対象として、学校生活から私生活まで幅広い悩みを、LINEを使って相談を受ける、LINE相談窓口「ひとりで悩まないで@長野」を視察しました。

相談件数は、平成29年9月10日から23日、電話による相談34件に対し、LINEによる相談対応実績は547件であり、中学生には電話よりLINEの方が圧倒的に身近であることが分かりました。

相談内容としては、友達関係・自身の性格から学業・進学についての中高生に特化した悩みや「いじめ」などについても相談があり、相談後は、「気持ちが悪くなった」などポジティブな意見が多いとの報告を受けました。

この様な事案を視察することで、いじめ相談にLINEが効果的であることが分かり、今後のいじめ対策の参考になりました。

11月2日
長野県喬木村

遠隔テレビ会議システムを導入し、遠隔合同授業を実施している喬木村第一小学校と喬木第二小学校（小規模校）を視察しました。

合同授業では、子どもたちが自分の専用タブレットを使い自分の意見や考えを電子黒板に表示することで、2校の児童は発表し合い、意見の共有が図られていました。遠隔合同授業により、多様性や学力向上、中一ギャップの解消につながったそうです。今後の本町のICT教育の方向性を考えていく上で、大変参考になりました。



▲ 喬木村授業風景